

明治33（1900）年～昭和54（1979）年。岡山県の産。大正13（1924）年東京帝国大学法学科卒業。独法を専攻し、在学中に文官高等試験合格、卒業後直ちに内務省採用となり、衛生局勤務。その後、岐阜県、山口県の警察部課長を経て再び衛生局に戻り、昭和11年衛生課長となる。昭和12（1937）年10月防空法施行と同時に新設された計画局防空課の初代課長となり、15年4月愛知県警察部長に転出するまで在任。その後は兵庫県総務部長、企画院第三部長を経て、18年福島県知事となり、19年厚生省衛生局長、勤労局長を歴任し、20年8月厚生次官となり、昭和21（1946）年1月退官。

そして、昭和30（1955）年岡山一区から衆議院議員に初当選、以来6回当選し、その間常に地方制度調査会委員として活躍。また、民間にあっては30年社会福祉法人同愛記念病院財団理事長、48年間会長に就任している。

以上の略歴で分かるように、氏は都市計画と直接には縁はないが、しいて言えば都市計画の一環である公園緑地との関係ではなかろうか。即ち、防空課長として在中の昭和14（1938）年度から、市街地内の公園は防空上からも不可欠な施設であるとして、六大都市及び北九州地域における都市計画公園の整備事業に対して国庫補助金が認められ、更に15年度には都市計画法を改正して新

しく緑地が都市計画の施設に加えられ、京浜、京阪神、中京のわが国三大重要地域の緑地事業にも国庫補助が認められたのである。前者を防空小緑と通称しているが、これは今日の都市公園事業に対する国庫補助の途を開いたものであり、その取得には当時防空課長として、また都市計画中央委員会幹事としての氏の尽力が極めて大きかったと思われる。

次に思い出を二つ。

当時の防空課長室には、陸軍の参謀肩章をつけた若い将校が極めて横柄な態度で民防空など必要はない広言しているのをよく見かけたものであるが、彼等と対等に談風発、応待している亀山課長の姿を、職員は大いに力強く思ったものである。また、世田谷にある北村内啓技师の家庭茶園実験圃場で毎年行われたキャベツ会には、亀山課長も必ず顔を見せていましたが、あの豪放磊落、しゃがれ声の面影は、公園への国庫補助の途を拓いた功績と共に、強大な思い出となって残っている。

